

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>4.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>3.8</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	-	-			<b>3.0</b>
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-			
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.5</b>	0.35	-	-			<b>3.5</b>
2.1 室温制御		<b>3.7</b>	0.50	-	-			
1 室温		3.0	0.38	3.0	-			
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-			
3 ゾーン別制御性	各室ごとに冷房・暖房の切替可能なシステムとしている。	5.0	0.38	-	-			
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-			
2.3 空調方式	展示室やエントランスの大空間は壁吹き出しを採用している。	<b>5.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>4.5</b>	0.25	-	-			<b>4.5</b>
3.1 昼光利用		<b>4.6</b>	0.30	-	-			
1 昼光率	昼光率3.0%以上	5.0	0.60	3.0	-			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備	屋根に開口をあけたトップライトを設けている。	4.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策		<b>4.0</b>	0.30	-	-			
1 昼光制御	庇やブラインドを用いて日射を制御	4.0	1.00	3.0	-			
3.3 照度	執務スペースは照度500Lx以上を確保	<b>5.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-			
3.4 照明制御	季節や時間帯に対応した自動照明制御を設けている。	<b>5.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-			
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.9</b>	0.25	-	-			<b>3.9</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	内装材料は全てF☆☆☆☆を用いている。	4.0	1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		<b>4.3</b>	0.30	-	-			
1 換気量	30m <sup>3</sup> /h人を確保	4.0	0.33	3.0	-			
2 自然換気性能	窓が開閉可能	5.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮	各種排気口から6m以上の離隔を確保	4.0	0.33	3.0	-			
4.3 運用管理		<b>3.0</b>	0.20	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-			<b>3.9</b>
<b>1 機能性</b>		<b>4.0</b>	0.40	-	-			<b>4.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.3</b>	0.40	-	-			
1 広さ・収納性	一人当たりの執務スペースを9m <sup>2</sup> 以上確保	4.0	0.33	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-			
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性		<b>4.6</b>	0.30	-	-			
1 広さ感・景観	スタッフルーム天井高2700	4.0	0.33	3.0	-			
2 リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上リフレッシュルームを確保。自動販売機あり。天然素材(石、木など)を活用し、間接照明などと合わせて計画している。	5.0	0.33	-	-			
3 内装計画		5.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理		<b>4.5</b>	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	内外装ともに防汚性の高い材料を採用している。	5.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	清掃用具室と管理倉庫の設置をしている。	4.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>4.0</b>	0.30	-	-			<b>4.0</b>
2.1 耐震・免震		<b>4.6</b>	0.50	-	-			
1 耐震性	建築基準法に定められた50%以上の耐震性を有する。	5.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.6</b>	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	内装材は天然素材を多く使い、20年以上の更新期間を確保	5.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外や厨房ダクトにガルバリウム鋼板を使用	5.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	更新性を考慮した材質を選定	5.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		3.2	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備	井水ろ過水を上水系統に利用している。また節水型器具を採用。	3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		5.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり				4.6	0.30	-	-	
1	1	階高のゆとり	階高3.9m以上を確保	5.0	0.60	3.0	-	
2	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.18	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性				3.4	0.40	-	-	
1	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	4	通信配線の更新性	配線用にラック、空配管を用意	5.0	0.10	-	-	
5	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	6	バックアップスペースの確保	駐車場部分をバックアップスペースとして計画	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	4.4
1 生物環境の保全と創出			伊勢原の植生に配慮した外構の緑化に努めている	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮			斜め屋根の平屋により、高さを抑え近隣敷地への圧迫感を軽減している。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			建物内部には一般にも公開される展示ルームやホールを設けている。	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			緑地や水面を確保し、地表面温度の上昇を抑制している。	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			BEIm=0.52	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			クールテュブ利用	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			BEIm 非住宅 0.86 住宅(専有部) 0.83	4.0	0.50	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)			LED照明を採用。効率の良いパッケージエアコンを採用。	4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	
4 効率的運用				4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価				4.0	1.00	-	-	
4.1	4.1	モニタリング	主要なエネルギーを計量	4.0	0.50	-	-	
4.2	4.2	運用管理体制	主要なエネルギー消費を中央監視にて把握可能としている。	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1	4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護				4.2	0.20	-	-	4.2
1.1 節水			節水型大便器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				4.4	0.60	-	-	
1	1	雨水利用システム導入の有無	井水を利用	5.0	0.70	-	-	
2	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.60	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			躯体と仕上げ材が分別可能	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	
1	1	消火剤		-	-	-	-	
2	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率=88%	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮				3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			緑化による地表面対策	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.7	0.25	-	-	
1	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	3	交通負荷抑制	駐車・駐輪スペースを確保	5.0	0.25	-	-	
4	4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミ置き場を設置	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				4.0	0.33	-	-	4.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				5.0	0.40	-	-	
1	1	騒音	騒音計算により規制値以下に抑えられていることを確認	5.0	1.00	-	-	
2	2	振動		-	-	-	-	
3	3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-	
1	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインに基づき計画を実施	5.0	0.70	-	-	
2	2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	